

特集 「被災地に向かう前に～災害ボランティアの心構え」

熊本地震発生から3カ月が経過しました。GW期間は、休みを活用してボランティア活動者の人数が伸びましたが、大型連休が終わったことで活動に参加できる方やNPO・NGO等の民間団体が少なくなってきました。

今後は、環境整備に加えてサロン活動や傾聴・子どもの遊び相手などのニーズも出てくるなど、多様な活動が必要とされています。

災害時のボランティア活動について(注意事項)

1. 災害ボランティア活動は、ボランティア本人の自発的な意思と責任により被災地での活動に参加・行動することが基本です。
2. まずは、自分自身で被災地の情報を収集し、現地に行くか、行かないかを判断することです。家族の理解も大切です。その際には、必ず現地に設置されている災害ボランティアセンターに事前に連絡し、ボランティア活動への参加方法や注意点について確認してください。災害ボランティアセンターの連絡先は、本会のホームページでもお知らせしています。
3. 被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合があります。安全や健康についてボランティアが自分自身で管理することであることを理解したうえで参加してください。体調が悪ければ、参加を中止することが肝心です。
4. 被災地で活動する際の宿所は、ボランティア自身が事前に被災地の状況を確認し、手配してください。水、食料、その他身の回りのものについてもボランティア自身が事前に用意し、携行のうえ被災地でのボランティア活動を開始してください。
5. 被災地に到着した後は、必ず災害ボランティアセンターを訪れ、ボランティア活動の登録を行ってください。
6. 被災地における緊急連絡先・連絡網を必ず確認するとともに、地理や気候等周辺環境を把握したうえで活動してください。
7. 被災地では、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいでボランティア活動に参加してください。
8. 被災地では、必ず災害ボランティアセンターやボランティアコーディネーター等、現地受け入れ機関の指示に従って活動してください。単独行動はできるだけ避けてください。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。
9. 自分にできる範囲の活動を行ってください。休憩を心がけましょう。無理な活動は、思わぬ事故につながり、かえって被災地の人々の負担となってしまいます。
10. 備えとして、ボランティア活動保険に加入しましょう。その際、極力出発地で加入手続きを行い、被災地に負担をかけないよう配慮しましょう。

ボランティア保険について

「平成28年熊本地震」に対するボランティア活動保険の加入については、「大規模災害特例」が適用されています。

●大規模災害特例とは?

全国社会福祉協議会(以下、全社協)の「ボランティア活動保険」では大規模災害が発生し、災害ボランティアセンターが設置され、災害復旧対応のボランティア活動に緊急性がある場合、被災地の道県社協から全社協への要請にもとづいて、「大規模災害特例」を適用し、速やかに災害復旧に対応できるよう利便性を図っています。

●大規模災害特例が適用されると、通常の場合と何が違うのですか?

- ①補償開始・・・通常は加入申込み手続きの完了した日の翌日午前0時から補償開始となりますが、大規模災害特例が適用された場合は、社会福祉協議会で加入申込み手続きが完了した時点から即時の補償開始となります。
- ②加入申込み・・・通常はボランティア自身が所属または居住する最寄りの社会福祉協議会にてボランティア活動保険を申込みいただけますが、大規模災害時のボランティアの場合は、被災地の社会福祉協議会でも申込みが可能となります。

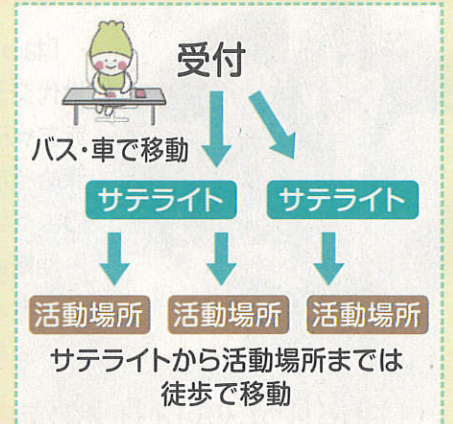
活動者さんへインタビュー



「新潟県中越地震」、「能登半島地震」、「東日本大震災」等でボランティア活動に携わり、平成28年4月14日に発生した「熊本地震」においても、ボランティア活動で活躍された『石川法男さん』をご紹介します!

Q: 今回の熊本地震における活動内容を教えてください。

A: 実際に活動したのは4月22日～5月3日です(移動含む)。1日目は熊本県益城町を訪問し、家の崩れたブロック塀を片付ける活動を行いました。益城町は訪問した時は災害ボランティアセンターが立ち上がって2、3日経ったこともあり、比較的ボランティアの数が多かったため、隣にある西原村に活動先を変更しました。西原村の訪問初日は、明日から災害ボランティアセンターが立ち上がる状態での運営のお手伝いを行いました。具体的には、支援物資の整理やサテライトと呼ばれるボランティア活動や作業を円滑に行うことができるように本部とは別に設置している場所に資材や道具を運ぶ活動をしました。



Q: 訪問時の状況を教えてください。

A: ボランティア活動者は、当然ですが燃料(ガソリン)や食料等は自分で調達しなくてはなりません。環境としては、電気や燃料・食料は確保できましたが、生活水(トイレやシャワー用等)だけは確保が難しい状況でした。建物については、想像が難しいと思いますが、建物はぐにやりと半回転したように曲がっており、被災した方の話だと、家の瓦が浮いたと言っていました。

Q: 今後、災害ボランティア活動する方に向けてメッセージをお願いします!

A: 準備については、災害ボランティアセンターが立ち上がっているかということ、燃料や水、食料等を含む被災地の状況を確認すること、ボランティア保険の加入等がまずは大切だと思います。心構えとしては、病気や体調管理は自己責任となること、してあげるではなく、復旧に少しでもお役に立てることができればという謙虚な気持ちを持つことが大切です。また、無理にお話を聞こうとするのではなく、相手から話してもらえるように寄り添うことや挨拶等を大切に、現地の方と一緒に活動する仲間と仲良く関わってほしいと思います。皆さんも機会があれば、災害がどのようなものなのか、実際に自分の住む地域で発生した時にどのように動けば良いのか等を自分の目で見て感じてきてほしいと思います。

被災地に向かう前に…気持ちも大事ですが、身の丈に合った支援活動を!

被災地の情報収集

被災地の災害ボランティアセンターや全国社会福祉協議会等のホームページなどで正確な情報を得ましょう。災害発生直後は、現地への電話による問い合わせは、控えましょう。

必需品をそろえる

多すぎず少なすぎず。ボランティア活動保険に加入を!

周囲に説明

もしもに備えて、家族・知人や職場に説明し理解を得ましょう。



災害ボランティア活動の必需品

- ① 帽子 or ヘルメット
- ② ゴーグル
- ③ 防護マスク
立体型がオススメ!
- ④ タオル
アイソノン・冷却剤
- ⑤ 暑くても長袖
- ⑥ 身分証明の名札
- ⑦ 水筒
- ⑧ ウエストポーチやリュックサック
●虫よけスプレー
●雨具：上下別、防寒にも
●手拭：必ず必須
●ミニ応急セット
●貴重品
- ⑨ 長ズボン
- ⑩ 長靴

自己完結が原則